

浜田地区は、揖保川によって運ばれた土砂が波の作用で砂堆となり、その微高地上に集落が形成されている。地形分類図と字限図を比較したところ、砂堆の形と小字名「東宅地・西宅地・南宅地」を合わせた形が一致している。

恵美酒神社は、「南宅地」に鎮座している。現在、社殿の南に西芝電機の高い塀が有るが、昭和十六年(1941)東京芝浦電機(現 西芝)が進出するまでは、神社から沖を眺めると、瀬戸内海、家島諸島、遙か四国が一望出来たであろう。

祭神は、田神・家の神・漁業神・商業神である事代主命・大国主命、後に菅原道真が合祀されている。

『網干町史』には、建立は寛永十四年(1637)と記され、『西讃府誌』にも、寛永年中灘屋道也建立とあり、龍門寺創建の施主である灘屋兄弟の父であることが解る。

明治三年(1870)には、「神仏判然令」の影響か、元文年中(1736~41)不徹寺に勧請された天満神社を遷し、後に合祀。社殿東の『恵美酒神社・天満宮合祀・改築記念』の石碑には、大正十三年(1924)五月竣成とある。この記念碑の後には『瑞垣寄附 成山徳三郎』の碑が建つ。この人は、御津町苅屋沖の干拓を目指し成山新田と、その名を遺した人である。当時の大阪朝日新聞に、「大津村の新田にも手を伸ばす。」と掲載されている。

神社には、昭和六年五月に建立の狛犬一対と、昭和九年五月建立の灯籠一対があり、拝殿に向って右側の狛犬は口に玉を銜え胸元には子供が居る。

昭和十年には、大風により神社脇の大松が倒れ、拝殿が倒壊。この松は大正十二年の地図に独立樹として記載されている。社殿はその後の大修理で現在の姿となり、落成の時は浜田の二台の屋台が練り出し大変賑わったと伝えられている。

網干歴史講座会員 赤穂茂文



春の恵美酒神社



子取り・玉取り狛犬



合祀・改築記念の碑